

円形脱毛症(Alopecia areata)

・円形脱毛症は主として類円形の脱毛斑を生ずる後天性脱毛症であり、脱毛症状は頭部のみならず毛髪が存在するあらゆる部位に発生する。円形脱毛症では一般的に脱毛巣の範囲が広いほど重症で難治であるとされる。

・リトシチニブは「円形脱毛症(ただし、脱毛部位が広範囲に及ぶ難治の場合に限る)」を適応としたJAK阻害薬である。同剤は本剤投与開始時に頭部全体の概ね50%以上に脱毛が認められ、過去6ヵ月程度毛髪に自然再生が認められない患者に投与することと明記されている(添付文書)。

・円形脱毛症に対する主な治療選択肢としては、ステロイド局所注射療法、局所免疫療法(保険適用外)、ステロイド外用療法、ステロイド内服療法、ステロイドパルス療法、リトシチニブと同じJAK阻害薬であるバリシチニブによる治療などがある。バリシチニブについてはリトシチニブと同様に「本剤投与開始時に、頭部全体の概ね50%以上に脱毛が認められ、過去6ヵ月程度毛髪に自然再生が認められない患者」に使用されるものの、保険適用を有するその他の治療は急性期(発症後6か月以内)や、より重症度の低い患者に対する使用が推奨されている(日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン 2017年版)。なお、バリシチニブはリトシチニブと同様の患者が適応となるが、小児患者への適用を有さない。

本邦における円形脱毛症に対する主な治療選択肢 (日本皮膚科学会円形脱毛症診療ガイドライン 2017年版に基づいて作成)

治療方法	保険適用	推奨度	推奨の対象
ステロイド局所注射療法*	○	B	病状が固定した S1 の単発型および多発型の成人例
局所免疫療法	×	B	S2 以上の多発型、全頭型や汎発型の症例
ステロイド外用療法	○	B	単発型から融合傾向のない多発型の円形脱毛症
ステロイド内服療法*	○	C1	発症後 6 カ月以内で、急速に進行している S2 以上の成人症例に使用期間を限定して行ってもよい
ステロイドパルス療法*	○	C1	発症後 6 カ月以内で、急速に進行している S2 以上の成人症例
リトシチニブ***	○	--	--
バリシチニブ**, ***	○	--	--

推奨度 B: 行うよう勧める、C1: 行ってもよい

重症度 S1: 脱毛巣が頭部全体の 25%未満、S2: 脱毛巣が 25~49%

*小児には原則行わない、** 小児への適用なし

***当ガイドライン作成時は保険未収載で、適応は「頭部全体の概ね50%以上に脱毛が認められ、過去6ヵ月程度毛髪に自然再生が認められない患者」